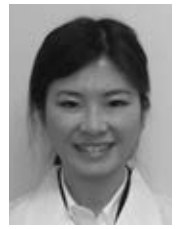


くすりばこ



薬剤部
渡邊 寛子

88. 虫刺され薬について

夏が過ぎて虫よけ対策も不要になったかなと油断をしていると、秋でも蚊などに刺されてかゆさを我慢できないことはありませんか？かきむしってしまい、治りが遅くなってしまうこともあるのではないかと思います。市販薬でもたくさん虫刺され薬が販売されていますが、どのような効果があるかを知っておくと、現在の症状に合わせて薬を選択することが出来るかもしれません。

蚊などに刺された時のかゆみや腫れの原因は、アレルギー性の炎症反応が起こることです。蚊の唾液腺物質などの有害物質が体内に取り込まれると、私たちの身体はこれを異物とみなし体内で様々な反応が起こります。その中で、ヒスタミンという化学物質が放出されることがあります。このヒスタミンには血管拡張作用や、知覚神経を刺激する作用があるため、これが放出されることによってかゆみや腫れが生じるのです。

虫刺されに関する薬には、大きく分けて①かゆみ自体を抑える成分②炎症を鎮める成分 があります。

①にはジフェンヒドラミンなどの抗ヒスタミン薬や局所麻酔成分のリドカインなどがあります。抗ヒスタミン薬は中枢神経抑制作用による副作用によって眠気が生じることが多いですが、外用薬に含まれる量は局所作用に適した量である為、眠気の心配はいりません。また、痛みやかゆみを感じさせなくするような局所麻酔成分のリドカインも、麻酔？！と驚いてしまう方もいらっしゃるかもしれませんが、極めて少量で一過性のものであるため副作用等を心配することはありません。

次に②の炎症を鎮める成分には、プレドニゾロンなどのステロイド成分や、グリチルリチン酸などの非ステロイド成分があります。腫れがひどい場合などはステロイド成分が含まれているほうが向いていますが、通常の虫刺されにはまず抗ヒスタミン薬で対応していく方がいいでしょう。顔まわりや子供、皮膚が薄い部分などにも、抗ヒスタミン薬の方が良いでしょう。

そのほかにも、使った時にひんやりするような、清涼感があるものを使用したことはありませんか？その原因は、メントールというハッカなどの成分が含まれている為です。そのひんやりとした清涼感によってかゆみを紛らわすことを目的としています。また、殺菌消毒の為アルコール分などが含まれているものもありますが、効果はそれほど期待できないため、刺された部位は冷水などで洗い流した後に使用するほうがおすすめです。

店舗に行ってみると様々な種類の虫刺され薬があり、どれにするか悩んでしまうと思いますが、効果に差はありません。お好みの薬を選んで使ってみてください。

虫刺され薬とともに、虫よけ薬もたくさん販売されています。こちらもスプレータイプやポンプタイプなど様々な形が存在しますが、効果に差はありませんので、お好みのタイプを選んで下さい。

今まであまり意識していなかったことも多かったと思いますが、是非一度成分などにも気を留めてみて下さい。

